

# 小さなまち幡豆町より

はずちよう

## 地域ブランド活性化に向けた取り組み

浅野 健

幡豆町は、愛知県の南部に位置する小さな町である。周辺都市では、自動車関連産業などの好調な製造業を背景として人口増がしばらく続くが、幡豆町の人口は、一九八〇年代をピークとして既に減少局面にある。ここでは、幡豆町の地域ブランド化に向けた取り組みを紹介する。

### 山と海に囲まれた小さな町幡豆町

幡豆町は人口約一万三千人、東西七・五キロメートル、南北五・三キロメートルの小さな町である。この狭い町域の中で、北は標高三百五十メートルの三ヶ河山を頂点とし、南は三河湾に面する海抜〇メートルの海岸まで、起伏に富んだ地形を有する。

三河湾国定公園(昭和三八年指定)、二つの県営施設(三ヶ河山スカイライン(昭和四三年開設)、愛知こどもの国(昭和四九年開設)など、山と海に囲まれた風光明媚な里山地域である。小さな町ではあるが、鎌倉と湘南を結ぶ「江ノ電」のような雰囲気を持つ名鉄蒲郡線の駅が町内に四つもある。また、千二百年の歴史があり毎年二月に行われる三河鳥羽の火祭り(国指定重要無形民俗文化財)、神社仏閣、地区に語り継がれる民話、歴史文化も豊富にある。

かつては、各地から観光客が大挙して押し寄せていたが、周辺の都市型レジャー施設への分散、町内からの民間事業者の撤退等により、一九八〇年頃には年間二百五十万人もあった観光客が二〇〇五年現在で約百万人に激減し(愛知県観光レクリエーション利用者統計)、来訪者の減少に歯止めがかかっていない。また、幡豆町ではこれまで、県有施設や民間事業者など外部の資本による取り組みが主で、地域固有の自然や歴史文化を活かした地元の取り組みはあまり行われてこなかった。

### 愛知万博を契機とした国際交流

幡豆町において転機となったのは、二〇〇五年日本国際博覧会「愛・地球博」のフレンドシップ事業を契機とし、チェルノブイリ原発事故で被災したウクライナとの国際交流事業をスタートさせたことである。これまで、町内小中学校で集めた募金の寄付、芸術を通じた交流事業を行ってきた。昨年には、渡辺町長を筆頭に町民ら二十名が五月二十九日から六月五日の日程でウクライナを訪れ、同国スラヴティッチ町で行われた第五回日本―ウクライナ芸術文化祭に参加し、現地の人々と交流を深めた。

### 地域のブランド化に向けた様々な取り組み

万博を契機として始まった取り組みは国際交流だけではなく、以下のような様々な取り組みがスタートしている。

#### ◇イベントによるまちづくり活動

二〇〇六年度の七月から二月末まで、愛知県の「団塊世代地域づくりモデル事業」の委託を受け、住民有志が幡豆町をフィールドとする二つの任意団体「幡豆・活き活き駅ネット」と「はず・海ねっと」がそれぞれ事業を展開した。双方の住民有志は、自分たちの活動を一年で終わらせたくないとの思いから、「特定非営利活動法人幡豆・三河湾ねっと」を設立し(二〇〇七年四月に愛知県より認証)、町内のお寺における骨董市など、イベントによるまちづくり活動を開始した。関連して、町が二〇〇七年九月にこどもの

国駅で行った名鉄利用促進イベントでは、「僕らの七日間戦争」の作者である小説家宗田理氏もかけつけた。

#### ◇幡豆町らしい特産品の開発

二〇〇六年度には、地元食材を使ってはずせん、はずめし、はずむすなどの産品が若手事業者によってつくられた。二〇〇七年度には、経済産業省の全国規模事業者支援事業により、幡豆町商工会に八百万円の予算が認められた。町商工会、町観光協会、町飲食店組合が協力して地酒、アサリ、豆味噌などを使った新たな名物料理の開発に取り組んでいる。

#### ◇民話を活用したまちづくり

幡豆町は小さな町ではあるが、集落が三十ほどあり、その多くに神社やお寺があり、地元の祭りが今でも行われている。このように小さな集落が点在するのは、幡豆町の起伏に富んだ地形に起因するものであるが、これらの集落を舞台に、平安時代の歌人・学者小野篁(おののかむら)の子孫である小野小桜(おののこざくら)が駆け落ちした伝説をはじめ様々な民話が残っている。これらの民話を伝えようと住民グループが本にまとめ、二〇〇七年一月一日には民話をめぐるイベントも行われている。

#### ◇総合力をいかに出していくか

このように様々な取り組みが始まった幡豆町であるが、一つ一つの取り組みが小さく、これらを支える人や団体が限られている。さらに、周辺を見渡しただけでも、県内屈指の温泉地である蒲郡、お茶の生産日本一である西尾市、赤穂浪士の敵役として有名な吉良上野介のお膝元である吉良町、うなぎの養殖日本一の色町があり、これらの都市の取組みに比べれば後発であるため、知名度をあげるには相当な努力が必要だと思われる。

幡豆町では、二〇〇七年度から二ヶ年、総務省の「頑張る地方応援プログラム」の支援を受け、名古屋大学の村山研究室や先に述べた宗田理氏の協力を得ながら活性化に向けて取り組んでいる。小さな取組みを合わせて総合力をいかに発揮していくかがこれからの課題であろう。



三河鳥羽の火祭り(国指定重要無形民俗文化財)が行われる神明社



西幡豆駅近隣の祐正寺で行われた友引骨董市



愛知県政100年を記念して整備された愛知こどもの国



「江ノ電」の雰囲気がある名鉄蒲郡線



東幡豆駅近隣の海岸沿いにある妙善寺(通称力ボチャ寺)



日本酒の隠れた名品「尊皇」の酒蔵



県内では数少ない自然のままの海岸



名古屋城天主台の石垣や、東京湾、伊豆諸島、名古屋港、中部国際空港の工事に使われた幡豆石の積出埠頭



干潮時に陸地とつながる前島



遠浅の波静かな寺部海水浴場



幡豆町で多く見られた木造船の模型



海を愛する人のリゾートランド 日産マリナー東海